

## 〔教育実践の記録〕

### 4年目を迎える「歴史総合」の授業デザイン

～ 日本史教師の視点から、ペアワークを中心に ～

伊藤 隆則（東京都立江北高等学校 主任教諭）

#### 1 はじめに、問題の所在

現行の教育課程（以下、新課程）は2022（令和4）年度に初めて導入され、2025（令和7）年1月に3年間を新課程で学んだ高校生に対する初めての大学入試（以下、新課程入試）が行われた。新課程で地理歴史科に初めて設置された「歴史総合」は、主に大学入学共通テストでどのような出題がなされるかが注目された。2025年「歴史総合、日本史探究」（100点満点）の中の「歴史総合」に相当する第1問（25点満点）で出題された内容を見た限りでは、事前にある程度予想された、資料の読み取りや思考力・判断力を問う問題<sup>1</sup>よりも、「歴史総合」で学習する知識、その中でも「日本史探究」では学習しない世界史的な知識が必要になる問題<sup>2</sup>が多いことが明らかになった。また、時代的な範囲についても、冷戦の終結、つまり1990年初頭までの内容が含まれていた。

対して、高等学校における「歴史総合」の授業はどうであったか。管見の限りでは、新課程導入から3年を経過してようやく模索期を脱しつつある状況であった。新課程とともに「歴史総合」が導入された1年目は旧課程における「日本史B」「世界史B」などを扱うと同様の発想で授業をデザインし、詳述された教科書の内容を丁寧に解説して1年間2単位の授業では全範囲の半分程度しか終わらなかったという事態が多くで発生した<sup>3</sup>。2年目以降は多くの学校で授業計画の見直しが行われ、中でも一つの主な方向性となったのが「歴史総合」の授業を生徒が自らテーマを設定する調べ学習的にデザインする考え方であった。生徒が自らテーマを設定し、主に一人一台端末を利用してパワーポイントなどで資料を作成し、相互に発表しあうといった形式である<sup>4</sup>。この形式は、生徒が自ら扱ったテーマについては「思考力・判断力・表現力」や「情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能」だけでなく「知識の獲得」についても高い効果が期待できる<sup>5</sup>が、一方で発表の準備に多くの時数を割くために生徒がテーマとして扱えない内容が多く残ってしまい、近世後半から冷戦終結までの基礎的な知識を偏りなく身に付けることを求めている新課程の共通テストには対応しきれないと考えられる。

#### 2 新課程入試を受けて「歴史総合」の授業デザインを再考する

では、新課程入試を受けてどのような授業デザインが考えられるのか。

まずこれまでの3年間の高等学校におけるいくつかの授業実践を踏まえ、次のような授業目標を立てた。

- ① 教科書レベルの内容から大きく逸脱しないことで近世後半から冷戦終結までの基礎的な知識を偏りなく身に付けさせる。

- ② ①を達成するために、教科書<sup>6</sup>が見開き1ページで扱う1単元を1コマの授業で扱う。
- ③ 一方で、「歴史総合」は高等学校の地理歴史科で最初に学ぶ科目である(ことが多い)ので、生徒が面白いと感じられるような授業を目指す。

基本的な授業スタイルは1コマを通じて教師が学びの方向性やペースを管理する形を採用した。これにより毎回の50分の授業で目標②を達成し、その積み上げによって目標①の達成を目指す。科目への導入に位置付けられた「歴史の扉」やコラムを除く、教科書の本文を構成する全単元数は45であり、この進め方を厳守すれば単元数分のコマ数で「歴史総合」の全範囲を扱うことが可能になり、新課程初年度に多発した全範囲を終えられない事態は避けることができる。

その一方で、教師が主導する講義型の授業の問題点<sup>7</sup>を克服しなければ目標③は達成できない。このために、ペアワークを中心とした1回2~3分程度のアクティブラーニング(以下、ペアワーク)を機動的に用い、授業展開にメリハリとスピード感を生むことを目指す。具体的には、パワーポイントのスライドの中に問を設け、タイマーで1分を図り、そのうちの30秒間はそれぞれの生徒が個人で考え、残りの30秒間はペアで意見交換を行い、その後数名の生徒を指名して答えを全体で共有する。期待感や意識付けを強めるために、この活動に入る際は「デデンッ!」をいう効果音を鳴らすようにしている。このペアワークを「導入」と「まとめ」を除いた35分程度の授業展開の中に1~3回ほど設定し、「聞く」「見る」「読む」といった受動的、インプットの活動が10~15分ほど続いたら、「考える」「話す」といった能動的な、知識や資料を活用するアウトプットの活動を2~3分ほど行うというリズムを作る。静かに授業を「受ける」時間と、にぎやかに自分の考えを述べ、相手の考えにリアクションを返す時間とを交互に設けることで、生徒の身体にも「タメ」と「発散」の循環が生まれることで「楽しい」感覚を得ることが期待できる<sup>8</sup>。なお、このペアワークの練習を兼ねて、毎回の授業の「導入」に復習クイズとして前回の授業内容から3問出題し、30秒間個人で考え、30秒間ペアで共有し、全体で答えを共有してから授業展開に入っている。

また、このような祝祭的なペアワークとは別に、1回の授業を貫く大きな問も設ける。授業の「導入」で問を提示し、これを念頭に授業を展開し、授業の最後に「まとめ」として10分ほどで生徒一人ひとりがMicrosoft Formsを使って問に回答する。この活動では、生徒がひとりで静かに時間をかけて授業全体を振り返り、考え、60字程度の論述をまとめていく。これにより発散的なペアワークとは異なった、比較的深い思考力・判断力・表現力の育成を目指す。ただ、今回はペアワークについての報告を主とするため具体的な内容は割愛する。

### 3 単元ごとの活動の例

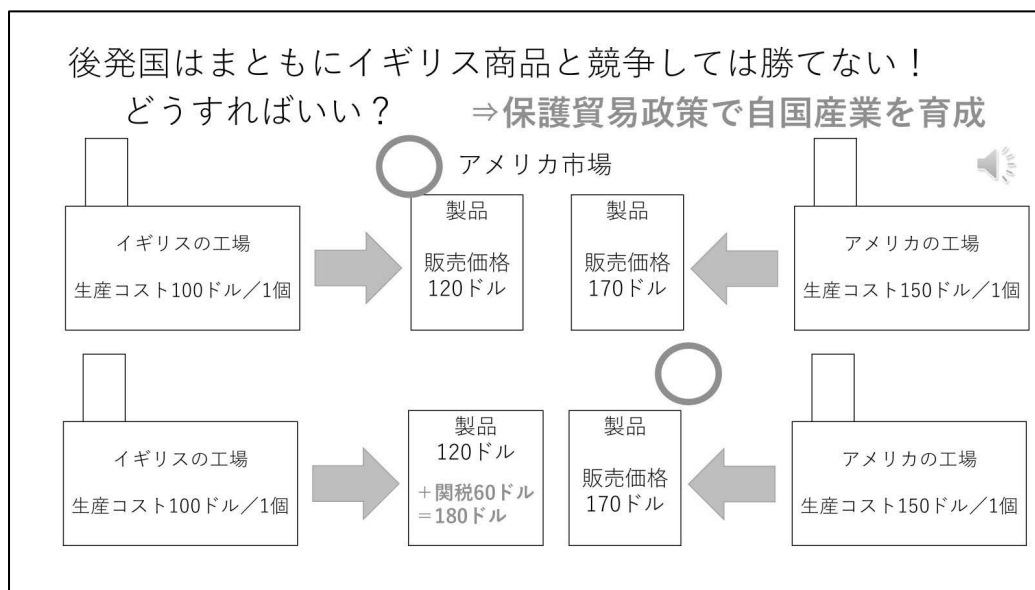
ここでは、2025(令和7)年度の4月から7月にかけて筆者が実際に授業で行ったペアワークの代表的なものを単元ごとに示す。現任校は東京都教育委員会より進学指導推進校に指定されている足立区にある都立高校で、生徒のほとんど<sup>9</sup>は国公立大学を含む大学進学を希望してい

る。このような学校の状況を踏まえ、1 学年の生徒 5 クラス 198 名を対象に先に掲げた目標①～③を念頭に次の表のような活動を行った。

単元名	授業展開内のペアワーク→答えの例
02 清の繁栄とアジア 貿易	清の支配領域の中で今の中国の支配領域になっていないところはどこか？（ <b>地図の読み取り</b> ） →外モンゴル、台湾
04 イギリスの産業革命とその影響	<b>資本</b> （より稼ぐために必要なもの）には何が含まれるか？ →資金、場所（土地や建物）、人手（労働力）、原材料、道具や機械、技術や経験……
05 世界市場の形成	後発国（アメリカを例とする）はまともにイギリス商品と競争しては勝てない！どうすればいい？（ <b>関税</b> についての自作模式図【図1】の読み取り） →イギリス製品に関税をかけ、自国製品の販売価格より高くする
06 日本の開国と世界交通の完成	①1840年代にアメリカ合衆国に編入されたテキサスとリフォルニアに該当する地域は？（ <b>地図の読み取り</b> 、北米の地図上にA～Dの選択肢を示す） →テキサス：B、カリフォルニア：A、Cは独立13州、Dはメキシコ ②（アメリカの太平洋ルート完成を受けて）イギリスがアジアルートをはるかに短縮するには？（イギリスのアジアルートを示した <b>地図【図2】の読み取り</b> ） →アフリカ周回ルートを経由するルートに変更する
07 市民革命とその影響	①フランス国歌にみられる愛国心（ <b>ナショナリズム</b> ）とは、どのような意識か？（フランス国歌の歌詞の読み取り、「国王や外国は〇〇、フランス人は〇〇」の〇〇に当てはまる言葉を考える） →「国王や外国は倒すべき敵、フランス人は団結して戦うべき」など ②ナポレオンが支配下に置いた地域には今のどんな国が含まれているか（ <b>地図の読み取り</b> ） →フランス、スペイン、イタリア、ドイツ、オランダ、ポーランドなど（これらの国にナショナリズムが広まった）
08 国民統合の模索	ヨーロッパ各国（英、仏、独、伊、墺、露、オスマン帝国）にはどんな <b>民族</b> が住んでいるか →英はイギリス人、仏はフランス人、独はドイツ人、伊はイタリア人などが中心であるのに対し、墺・露・オスマン帝国は多民族国家

09 明治維新と東アジア	岩倉使節団が訪れた国を順番に10か国以上あげてみよう！（「岩倉使節団の世界周航コース」を表した <b>地図の読み取り</b> ） →アメリカ、西欧諸国、北欧諸国、エジプト、ベトナム、中国（欧米とアジアの差を実感するルート）
10 大日本帝国憲法の制定	欧米諸国が設定した領事裁判権を撤廃するにはアジアの国家はどうしたらいい？（自作模式図【図3】「 <b>不平等条約の理屈</b> 」の読み取り） → <b>近代国家</b> の法体系を整備し、欧米相当の裁判ができることを示す
12 帝国主義とアフリカ・アジア	Q1 アフリカに多くの植民地を獲得したトップ2か国は？Q2 それでも独立を維持したアフリカの国は？（アフリカ分割の <b>地図の読み取り</b> ） →Q1 イギリス、フランス。Q2 エチオピア、リベリア。 ②クイーンの「ボヘミアン・ラブソディ」で主人公が撃ち殺した「男」は何を象徴しているのか？（フレディー・マーキュリーの略歴【図4】と歌詞の読み取り） →インド系の両親から生まれた自分自身（の <b>アイデンティティ</b> ）
13 日清戦争とその影響	①強い国家の条件、日本と清はどこまで達成している？（自作模式図【図5】の読み取り） →日本は「 <b>国民統合</b> 」「 <b>政治参加</b> 」を達成、「産業の成長」「 <b>軍事力強化</b> 」は半ば、清は「 <b>国民統合</b> 」「 <b>政治参加</b> 」は未達成、「産業の成長」「 <b>軍事力強化</b> 」は半ば。
14 日露戦争とアジアの変動	清末期の状況を受け、孫文はどうすればいいと考えたか？（自作模式図【図6】の読み取り） →共和制の導入により <b>国民の政治参加</b> を図り利権の回収を目指す

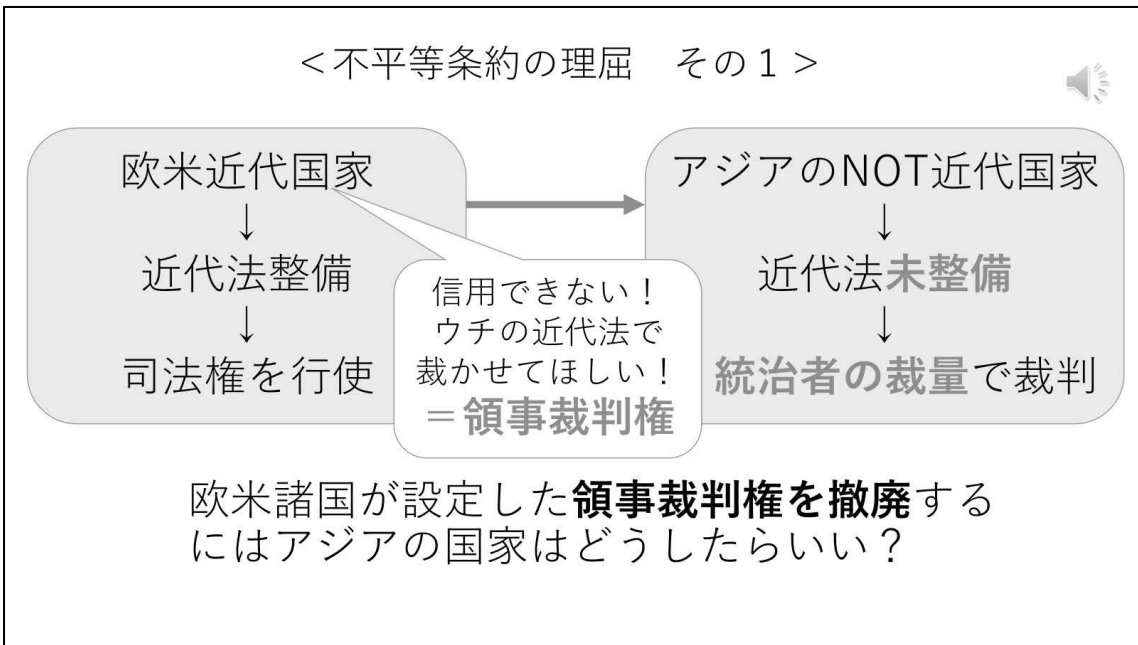
【図1】※ 太字の部分はペアワークの後に表示



【図2】



【図3】

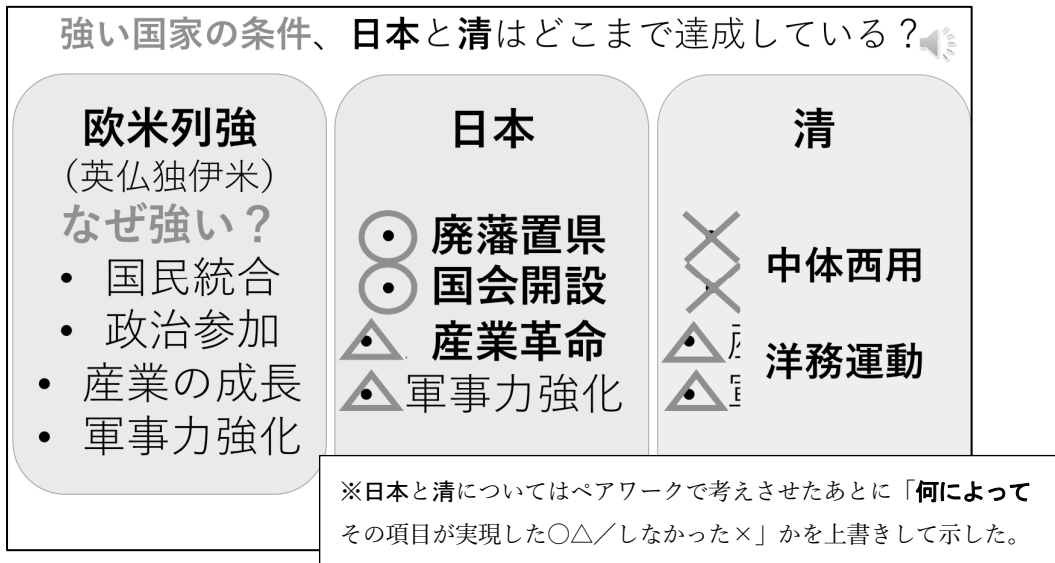


【図4】

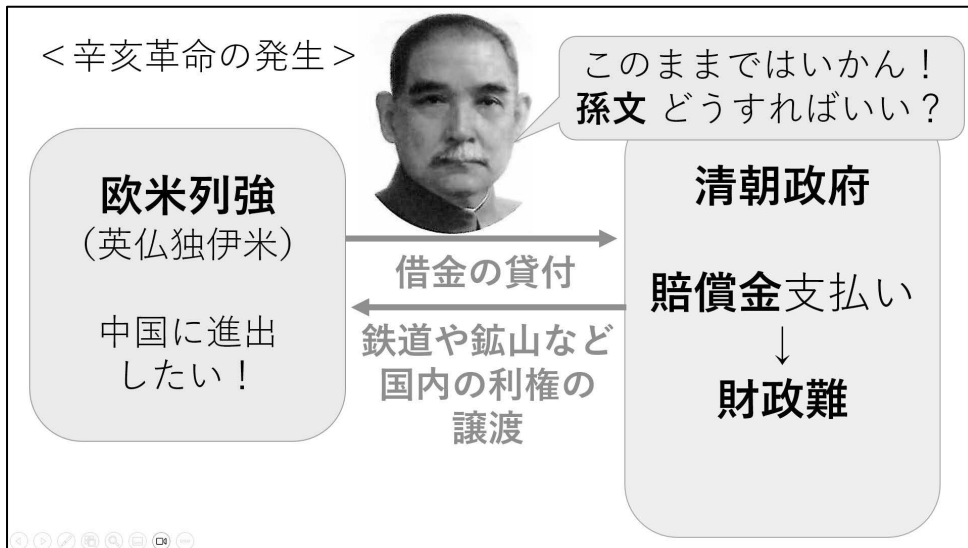
フレディ・マーキュリー  
(1946~1991)  
父・母はインド出身  
イギリス領ザンジバルで成長  
イギリスでロックバンド  
「クイーン」を結成  
ボヘミアン・ラプソディーは  
1975年の作品

フレディ・マーキュリーの肖像  
省略

【図5】



【図6】



#### 4 おわりに、授業実践を振り返って

ここでは、3に示したペアワークの分析を行うことで授業実践の振り返りを行い、成果と課題を検討したい。「デデンッ！」の効果音とともにお題が示されると生徒は静かになって考える表情になり、30秒個々に考えた後には「どうやって考えた？」「なるほどねー」などと明るく活発な対話を通じて自分たちなりの答えにたどり着いていく様子が何度も見られた。「楽しい」感覚を得させるという授業展開上の目的に加えて、内容面では「地図の読み取り」を通じて歴史の空間的な展開を生徒に意識させる活動が多くなった（単元02、06-①・②、07-②、09、12-①）。この点については、1学年の生徒が「地理総合」も並行して学んでおり、国名テストなどもたびたび行われていたこともあって、関連性を意識させやすかった。学習指導要領解説に示された「地理総合」と相互補完的に関連させることを具体的に実現できたと考える。

また、自作模式図の読み取りを通じた活動を中心に、社会科（地理歴史科と公民科）に共通する重要概念を「歴史総合」の内容のなかで具体的にイメージさせる活動も多くなった（単元

04 資本、05-②関税、07-①ナショナリズム、08-民族、10 近代国家と不平等条約、12-②アイデンティティ、13 と 14 国民統合と政治参加)。この点については、社会科で追究すべき課題として何度も登場してくる抽象概念を丁寧に具体化し、イメージできるようにすることを積み重ねて、学習指導要領解説の「目標」に示された「知識の概念化」を図るように心掛けた。これにより、2 年次以降の社会科の各科目の学習につなげるとともに、概念の理解を前提に出題される共通テストにも対応できる素地を築くことができたと考える。

なお、著者が立てた授業目標の③生徒が「面白い」と感じられるような授業が実現したかについては、令和 7 年 7 月に校内で実施された授業評価アンケートで「わかりやすく教えてくれたり、考えさせてくれたりして」いるかについて肯定的評価 96%、また「もっと学習したくなるよう、興味や関心をもたせてくれたり、意欲をわかせてくれたりして」いるかについて肯定的評価 86%となったことにより、大部分の生徒が「面白い」と感じられる授業ができたのではないかと考える。

一方で課題としては、毎回の授業を一定の「型」に沿って行っているため、回を重ねていくなかで慣れが生じて目新しさがなくなってくることである。慣れは学習活動がスムーズに進むメリットもあるが、「歴史総合」は中学社会「歴史」で一度学んだ時代を学びなおすといった側面がありマンネリに陥りやすい。7 月までの授業実践で定着した受動的な活動と能動的な活動を交互に設ける「型」を生かすためにも、中学社会で学んだ歴史のイメージを深めたり刷新したりするような資料や活動、深い思考に導く問を精選することで新鮮な学ぶ楽しさを感じられる授業を目指していきたい。

---

<sup>1</sup> 2025 年大学入試共通テスト「歴史総合、日本史探究」第 1 問 問 5、問 6、8 問中 2 問 (6 点)。

<sup>2</sup> 前掲「歴史総合、日本史探究」第 1 問 問 1 (アヘン戦争以前に清がイギリスに開いた港が広州のみであること)、問 2 (清仏戦争が 1884 年に発生したこと)、問 3 (産業革命後のイギリスが自由貿易政策を進める中で穀物法を廃止したこと)、問 4 (イギリスの「光栄ある孤立」が日英同盟締結までの政策であること、イスラエル建国とパレスチナ問題が第二次世界大戦後に発生したこと)、問 7 (チェコスロヴァキアの民主化運動「プラハの春」が 1968 年に、中国の鄧小平による改革・開放政策が 1978 年から、カストロによるキューバ革命が 1959 年にそれぞれ起こったこと)。実に 8 問中 5 問 (15 点) で確実に正答を選ぶためには「世界史的な知識が必要になる」状況であった。

<sup>3</sup> 高校生新聞オンライン (2023. 4. 05) 「歴史の教科書を終えずに授業終了『受験は自主学习で』 高校生が『不公平』と訴え」<https://www.koukouseishinbun.jp/articles/-/9900> (アクセス 2025 年 7 月)、高校生新聞オンライン (2023. 7. 04) 「『歴史の教科書が授業で終わらない』問題、新課程で多発か 大学受験生の対処法は」<https://www.koukouseishinbun.jp/articles/-/10176> (アクセス 2025 年 7 月) など

<sup>4</sup> スクールポット (2023. 12) 「教えることで理解が深まる新科目『歴史総合』で模擬授業」[https://www.schoolnetwork.jp/jhs/shingaku\\_tsushin/tsushin-202312/school-4.php](https://www.schoolnetwork.jp/jhs/shingaku_tsushin/tsushin-202312/school-4.php) (アクセス 2025 年 8 月) など

<sup>5</sup> ラーニングピラミッド キャリア教育ラボ (2018. 7) 「平均学習定着率が向上する『ラーニングピラミッド』とは？」<https://career-ed-lab.mynavi.jp/career-column/707/> (アクセス 2025 年 8 月) など

<sup>6</sup> 原田智仁、伊藤純郎ほか『私たちの歴史総合』(令和 3 年 3 月文部科学省検定済)、清水書院、2025 年

<sup>7</sup> そもそも「歴史総合」はこのような「(日本史・世界史にみられた) 講義型の授業」を克服する目的でデザインされた科目という性格が強い。ニッポンドットコム (2022. 03) 「高校の新科目『歴史総合』の可能性と課題」<https://www.nippon.com/ja/in-depth/d00797/> (アクセス 2025 年 8 月) など

また、高等学校で歴史の授業を行っている実感として、一方的な講義を 15~20 分続けると、生徒の何人かが寝てしまう可能性が高い。

<sup>8</sup> 齋藤孝『子どもたちはなぜキレるのか』ちくま新書、1999 年 など。

<sup>9</sup> 2025 年 (令和 7) 年 3 月卒業生の 87.6%が大学に進学。国公立大学進学者数は 30 名弱。